

令和7年度 社会福祉法人 進和学園 事業報告

進和学園の基本理念「本人中心」のもとに、“一人には一人のひかり”の精神をもって、七つの輪（ご本人、ご家族、地域社会、ボランティア、行政、職員、法人役員）の連携のもと、障がい部門、保育園部門、学童保育部門では、利用者ご本人と子どもたちの支援充実のために、引き続き法人職員が各事業活動に一丸となり取り組みました。

令和7年度は、役員、評議員、評議員選任・解任委員の任期満了に伴う改選を6月に同時に迎える年度でした。理事9名のうち1名の交代、評議員10名のうち4名の交代がありまして新体制でスタートしました。しんわさわやか相談室の第三者委員も3名のうち1名の交代がありました。

令和7年度は3年ごとに実施される障害福祉サービス等報酬改定の2年目に当たり、入所施設・グループホームに設置することになった地域連携推進会議を進和やましろホーム、進和あさひホーム、はばたき進和、しんわグループホームで開催しました。委員は地域の方々をはじめ利用者ご本人、ご家族関係者で構成し、施設の視察を通して意見交換や助言をいただくとともに理解と交流を深める有意義な会議となりました。強度行動障害の状態にある方の支援向上を図るため、対象となる施設は順次、重度障害者支援加算の取得条件を整える取組みを推進しました。法制度の傾向は、基本報酬よりも加算に偏る評価構造であるため、より複雑化、細分化し、加算等の有無により二極化した構造があります。次期報酬改定に向けた提言とともに、物価高騰及び人材確保対策の喫緊の課題については、神奈川県知的障害施設団体連合会及び神奈川県知的障害福祉協会、神奈川県社会福祉協議会等の関係団体とともに調査、分析し、福祉の実践活動から提言、要望を国県市行政等へ提出しました。今後も引き続き関係団体とともに現場の意見を発信してまいります。

昨今の社会情勢から物価高騰と賃金上昇の影響を受けて、公定価格による福祉サービス事業は、県市行政からの物価高騰に係る臨時交付金を受けても、運営に係る経費全般が上昇し厳しい運営を引き続き強いられる状況となりました。企業団体等の全産業平均賃金と福祉従事者との賃金格差はより拡大するとともに、さらに人口減少社会を迎えての人材確保については全産業に関わる問題です。特に対人援助が根本である福祉サービス事業にとって人材の確保、定着の困難性は、利用者ご本人への支援サービスの質と量に直結しますので懸念されています。進和学園では採用人事サポートチームの取組みが一定の効果を上げて新卒採用者は維持できました。しかし、学生数の減少と採用の多様化、就労者の意識変化は今後の様相を変えつつあります。引き続き福祉・介護職員処遇改善事業については、障がい部門は支給方法を職務手当として月給及び時給単価の増額に努めました。学童保育部門についても月額手当として支給し賃金改善の目的を果たしました。保育園部門については、こども家庭庁の追い風もあり、公定価格が増額されたことでベースアップが実現しました。令和7年度は障がい部門、保育園部門それぞれ給与体系の見直しを図り、初任給を含めてベースアップを図りました。人材の確保については外国人人材の採用に向けて、「UKAI International Employmennt 株式会社」と連携して令和8年度中の採用を目指して準備を進めました。

昨今の気候変動により自然災害の脅威が増しております。地震のみならず風水害の対応は防災、減災対策の重点課題となりました。令和6年能登半島地震の被災地支援に行った職員から、平常時から地域の拠点となっている福祉の機能役割が大事であるという報告をもとに、地域の防災拠点として機能できるように取り組みました。万田・高根地区と土沢地区でそれぞれ総合防災訓練を11月に実施し、例年通り平塚市及び地域消防団に立会っていただき助言をもらいました。また平塚市からの補助金を活用して防災用ポータブル蓄電池を進和やましろホーム、しんわルネッサンスで購入しました。

障がい部門は、利用者ご本人の生活支援・就労支援・相談支援を推進しました。生活支援は、施設入所、短期入所機能のある進和やましろホーム、進和あさひホーム、はばたき進和、進和万田ホームが平塚市に地域生活支援拠点等の登録をして、地域生活を支えるセーフティネットとしての拠点機能の対応に努めました。

生活支援の「健康と安全」を守る上で課題となっている感染症については、新型コロナウイルスは令和5年5月8日より感染症法上は季節性インフルエンザと同等の5類へ移行し、その後は単発に発生する程度となりました。しかし、胃腸炎が令和8年1月後半から2月後半にかけて流行し、進和やましろホーム、進和あさひホームでは多数の発症者が出ることになり平塚保健福祉事務所に報告しました。重症化しないまでも施設・事業所では、高齢、基礎疾患等で重症化リスクが高い利用者ご本人の命と健康を守るため慎重に対応し、感染拡大防止対策に取り組みました。嘱託医の北山先生のご配慮によりインフルエンザ予防接種(令和7年10月)、コロナウイルスワクチン9回目接種(令和7年12月)を希望するご本人、職員に対して実施出来たことは感染予防、重症化を防ぐ上で大変効果がありました。年々進む高齢化、重度化による身体機能の低下については医療機関との連携を密にし、食事場面等の嚥下障害に対するリスク回避と安全対策に努めました。

課題となっている障がい部門の今後の生活体系に係る施設再整備計画については、安全対策をはじめ個室化、ユニット化、定員等の条件や様々な課題があります。今後の国の動向と障害福祉サービス等報酬改定の方角性、県市の障がい福祉計画を見定めながらも、法人内のセーフティーネットを構築するべく、現実的なニーズを鑑み慎重に中長期プランを継続検討しました。昨今の社会情勢の影響による建設経費、資材等の物価高騰は、今後の修繕、改修、再整備にとって大きな支障になり懸念されるところです。

就労支援、生産活動は、物価高騰を受けて年々厳しくなる経済状況の中で工賃確保という諸課題に取り組み、ホンダ車組立作業を柱に作業種の多様化を図り、自主生産事業については新商品の開発やコラボ企画、販路拡大に努めました。サンメッセしんわは、平塚市・東海大学の交流提携40周年記念事業としての商品開発「湘南ゴールドぱん」や、横浜赤レンガ倉庫で開催された全国的なイベント「パンのフェス」に令和8年3月に出店し、アワード賞等に挑戦するなど付加価値のある新作パンが好評でした。しんわルネッサンスの新規の製パン作業も2年目に入り本格的な商品開発に努め、販売イベント等に積極的に参加。特に道の駅「湘南ちがさき」に常時納品し販売促進を図りました。いのちの森づくり事業は企業団体、関係機関と協力して基金等を活用して植樹、育樹作業の実績を伸ばしました。やえくぼは、アートで和む陶器を「大磯うつわの日」や展示即売会に出品し好評を得ました。進和万田ホームは自主作業に取り組み、利用者ご本人の作品が2025年度PIP国際障害者芸術祭において入賞作品として選ばれました。進和やましろホームは原木しいたけ栽培を中心に取組み、進和あさひホームはボールペン受注作業と自主作業、農園芸作業、はばたき進和は自主作業と農園芸作業に取り組みました。しんわルネッサンスでは、ご本人にあった働き方や福祉サービスを選べるようアセスメントを行う「就労選択支援事業」を令和7年10月に指定を受け、行政・支援学校等と協同し推進しました。

平塚市役所内の福祉ショップありがとうは、7月28日で開設して満11年となり、利用者ご本人の店員参加を図り、共同受注窓口を含めた事務局としての機能、役割を進和学園スタッフが果たしました。「チームありがとう」によるFM湘南ナパサのラジオ放送「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜日 20:00~20:30)も11年超の間、利用者ご本人がパーソナリティを務め放送を継続し、ともに生きるメッセージを発信出来ました。

相談支援は、サンシティが生活・就労両面にわたる支援など当事者ご本人の多様化するニーズと課題に向き合い、令和 6 年 1 月に立ち上がった平塚市基幹相談支援センターと連携し、自立支援協議会の運営や委託相談事業所としての専門的相談機能を果たしました。企業就労した当事者ご本人のアフターフォローとしての定期的な研修、交流事業にも積極的に取り組み効果を上げました。令和 7 年度は平塚市の防災計画の推進のために、在宅で障がいのある方の個別避難計画の作成を受託しました。

意思決定支援プロジェクト委員会は、神奈川県モデル事業を行なったあさひホームがリードし、その目的や手法を各施設に水平展開しました。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に、引き続き各施設の状況を情報共有しながら横断的に取り組みました。

本人活動は「しんわ本人自治会連合会」を中心に、毎月の定例役員会を通じて進和学園の事業計画に主体的に関わり、行事イベントを推進し、さらに年末年始募金を実施しました。余暇活動は、しんわ文化・スポーツ振興会の応援を得て、各同好会活動が実施されました。平塚市自立生活者等市長表彰において、グループホーム・サンメッセ所属の利用者ご本人が企業就労継続の実績とスポーツ大会活躍の功績が認められて平塚市長より令和 7 年 12 月に表彰を受けました。

保育園部門は「いずみ保育園」「富士見保育園」「しらゆり保育園」の 3 園とつどいの広場「どれみ」が連携して、地域に根ざした子育て支援を推進しました。季節性インフルエンザ、胃腸炎等の各種感染症の流行に注意しながらも、各種行事イベント、保育参加や保育懇談会を開催し、保護者との情報の共有及び保育内容の理解を深めました。また、3 園とも保育業務の記録、連絡等の情報共有のため、ICT 機器とアプリを活用し効率化を図りました。つどいの広場「どれみ」は平塚市西部福祉会館の運営の関連で、令和 8 年度から開所日を増やす計画に協力し準備を進めました。

学童保育部門は「勝原学童保育会第 1・第 2」「旭学童保育会第 1・第 2」と、児童数は減少するなかで学童保育のニーズは増えました。両学童とも平塚市、学校に協力いただき、隣接する空き室の使用や一時利用を認めてもらう配慮をいただき、法人内施設の応援も受けて保育の充実に努めました。平塚市支援対象児童等見守り強化事業（居場所型）として平塚市より受託した「こどもスペース∞（無限大）」（令和 5 年 2 月開設）は毎月第 1、第 3 日曜日に開設。旭学童保育会第 1 を拠点に運営は放課後等デイサービス部門と学童保育部門が中心となり取り組み、相談支援を通して家庭内の困りごとやヤングケアラー等の課題解決に向けて取り組むとともに、定期的に利用される子どもたちの居場所づくりとしての役割を果たしました。

公益的な取り組みについては、「なでしこの苗の無料配布」「子どもたちの陶芸体験」「地域防災への協力・受入協定締結」「地域ふれあい交流イベントへの協力」「開放保育・育児相談」など、今までの取り組みを継続して推進しました。しんわルネッサンスでは、令和 4 年度から始めた生活困窮者自立支援法に基づく認定就労訓練事業に取り組み実績を上げました。

以上、地域のニーズに応えて貢献する社会福祉法人としての役割を認識して、「福祉のまちづくり」「共に生きる社会」の実現を目指して取り組みました。

令和 7 年度で残念なことは出縄雅之会長が 5 月 23 日(金)に他界したことでした。既往症からくる体調不調で入院した後、治療に努めて手術の予定も決まったところで容態が急変し、家族に見守られ静かに旅立たれました。享年 89 歳でした。会長は、進和学園創設以来 67 年間におよび社会福祉に人生を捧げられました。昭和 33 年、出縄家の自宅を開放して始まった知的障がい児入所施設「進和学園」ですが、兄である創始者 故出縄明を支えて、利用者ご本人の成長に伴い、そのニ

ーズに合わせて施設整備、運営管理、資金管理などの実務全般を担ってこられたのが会長でした。今後とも利用者ご本人の幸せと、ご家族の安心のために、会長の想いを引き継いで進んでいくことを報告いたします。

I ≪重点的に法人・施設で取り組む課題≫

1 役員・評議員の体制について

令和7年度は、役員、評議員、評議員選任・解任委員の任期満了に伴う改選の時期でした。役員改選については任期2年で、理事9名のうち8名は再任、出縄雅之理事(会長)の死去に伴い、出縄貴生施設長が就任。監事2名は再任いただきました。評議員改選については任期4年で、10名のうち6名は再任、4名の方は健康問題や高齢化を理由にご辞退されましたので新しく4名の方に就任いただきました。評議員選任・解任委員の改選については任期4年で、5名とも再任いただきました。一連の手続きは、令和7年6月5日午前の理事会、同日午後の評議員選任・解任委員会、6月26日午前の定時評議員会、同日午後の理事会を経て行われ、上記の役員、評議員が承認され、出縄守英理事長が再任されました。理事長の重任登記は6月30日に完了しました。

2 地域連携推進会議の開催について

令和7年度より義務化された、入所施設・グループホームに設置することになった地域連携推進会議を開催いたしました(グループホーム10月15日、やましろホーム11月4日、あさひホーム11月5日、はばたき進和11月13日)。第1回目の開催でしたが、和やかな雰囲気の中で各事業所の会議は開催されました。地域関係者の委員皆様からは、率直なご意見を頂戴いたしました。ご家族委員の方からは、改めて事業所の取り組みや課題がわかったと感想をいただきました。利用者ご本人委員の方からは、これからの希望や取り組んでほしいこと等のご意見をいただきました。11月11日には、しんわグループホームが湘南西部圏域グループホーム連絡会研修の「地域連携推進会議実践報告会」において、このたび開催した地域連携推進会議の内容を発表しました。

3 進和学園の中長期計画の作成について

最も重要なことは、利用者ご本人のライフサイクルを支える安心、安全のセーフティーネットが整った循環型の福祉サービスです。法人内ネットワークで構築し、関係専門機関等との連携をもって推進する総合支援サービス計画図をもとに検討を進めてきました。「本人中心」の理念のもと、生活のスタイルの多様化、日中活動・仕事の選択等について、ご本人が体験して「選んで決める」ことが原則です。総合的な福祉サービスの再整備については、進和やましろホーム(築40年)及び進和あさひホーム(築35年)の老朽化対策と住環境の改善、土砂災害警戒区域で急傾斜地の下にある「しんわやえくぼ」の安全対策の課題があります。国連の権利条約や国県市の法制度及び障害福祉計画の変遷、経過を踏まえて、引き続き中長期計画を検討してまいります。昨今の社会情勢の影響による建設経費、資材等の物価高騰は、今後の再整備にとって大きな支障になっています。

4 福祉人材の確保・定着・育成について

新卒採用の促進に向け、採用人事サポートチームを中心に取り組みを進めました。新卒人材の確保が難しい状況の中、コロナ禍で導入したオンライン説明会・面接が効果を上げ、遠方からの応募にも対応できました。学生に寄り添った対応により、令和7年度は障がい部門6名、保育園部門2名を採用しました。

中途採用では、リクオプ、ハローワーク、インディード、職員紹介など多様な媒体を活用し、障がい部門11名、保育園部門1名、学童部門9名を採用しました。

人材育成では、各委員会が階層別研修やスーパーバイザー方式、キャリアアップ研修を推進

し、外部研修も対面・オンライン双方で参加しやすい環境を整えました。

5 人事考課制度の確立について

法人理念をもとに職務遂行・貢献度に応じた評価を給与面・昇給に反映しました。そして人事考課を通じて職員のモチベーションアップにつなげました。人材育成・人事考課制度委員会で実態に即した評価内容を検討しました。

6 職員研修について

法人内においては、人権虐待防止委員会・職員養成委員会・人材育成人事考課制度委員会が主催でタッチケアの講師をお招きして 82 名の職員が人権の研修を受けました。受講できなかった方は後に動画にて全職員が視聴しました。後にもっと学びたいとのことでタッチケアの研修に県外へ 3 名派遣しました。理事長講話会は、ともしびショップ湘南平リトルツリーで実施しました(2 回、17 名が受講)。法人内交流研修については、5 名の職員が体験を希望する事業所で実地研修をおこないました。全国施設長会、全国職員研究大会、関東ブロック大会について、職員広報を作成、パソコンのシステムを通じて、全職員に配信しました。施設現場見学会では、湘南支援学校の公開日に合わせて見学を 12 名で参加しました。

7 外国人材採用の取組について

昨今の日本では多くの業種で外国人の働く姿を目にするところです。介護保険分野ではすでに雇用している事業所は多くありますが、障害分野ではその支援の特性から、まだ一部事業所でしか雇用されていません。令和 7 年度はインドネシアの人材を紹介する UKAI International Employment(株)並びに TASUKU(株)と「特定技能 1 号」の外国人受け入れについて相談を進めてきました。今回は女性に絞り、12 月 25 日に 1 名、2 月 26 日に 2 名、3 月 19 日に 4 名、3 月 24 日に 3 名の合計 10 名を TASUKU(株)社員と共に通訳付きのオンラインで面接しました。皆さん明朗な女性ばかりでした。その内 3 名の方には 3 月に内定通知書を出しています。その後雇用条件の調整や契約を経て、3 月 31 日に TASUKU(株)より出入国在留管理局にビザの申請が提出されています。今後の予定としては、入国審査に期間を要するため、令和 8 年度内には入国する予定です。住まいは法人所有の高村団地住宅を予定しています。

8 給与体系の見直しについて

人材確保は法人の重点課題となっています。最低賃金は毎年上昇し、それに合わせて本俸及び時給の改定をしてきました。コロナ 5 類移行後、全産業の平均賃金と社会福祉・介護事業の平均賃金の差は広がっています。そのため新卒採用においては、初任給の基本給と諸手当を合わせた月給を上げる必要があります。社会福祉事業は公定価格で定められておりますので財源は限られるところですが、令和 7 年度は給与体系を見直しました。障がい部門は処遇改善加算を活用して職務手当及び賞与の一部を基本給に組込む本俸是正を実施し、定昇と合せて年収の増額を図りました。さらに夜勤手当の増額、重度障害者支援加算に連動する特殊業務手当を創設しました。保育園部門については公定価格の増額があったため給与体系のベースアップを図ることができました。また、次年度に向けても適切に給与水準のベースアップが図れるよう検討しました。

9 地域の困りごとの発見、解決に向けた相談体制について

虐待、家庭での養育・監督困難、ヤングケアラー、引きこもり・不登校、情報格差、狭間の障害など、地域の隠れた課題と困りごとに向き合い対応すべく、平塚市支援対象児童等見守り強化事業(居場所型)と、生活困窮者自立支援法に基づく認定就労訓練事業に取り組みました。労働力不足や働き方の多様化などの影響により生活様式が変化し、異世代間交流が減り社会的価値観の共有がむずかしくなるなど、地域社会のありようが変わっていく中、人々が抱える困難や生きづらさは多様化、複雑化しています。地域内のさまざまな支援機関と関係者が情報を共有して必要

なサポートを柔軟に創出、提供する支援体制のあり方について検討する重要性の認識を強めました。

10 公益的な取組について

平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、地域子どもたちの陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力、市内保育園等への訪問コンサートなどの福祉的な交流の推進と、生活困窮者自立支援法に基づく認定就労訓練事業に取り組みました。

11 運営システムや IT の活用等について

本年度は、運営システムを中心とした IT 活用をさらに推進し、連絡調整機能の向上と業務効率化を図りました。業務全般の ICT 化を検討し、省力化や経費削減、SDGs への貢献につながる取り組みを継続しています。法人内外の会議では一部オンライン化が定着し、会議時間や移動時間の削減に効果を上げています。対面が必要な場面もあるため、会議内容に応じて適切に使い分けました。また、会議録の自動作成にも取り組みはじめ、記録業務の負担軽減を図ります。職員のデジタルスキル向上にも注力し、オンラインツールやデジタル技術の活用を促進しました。HP・IT 推進委員会が中心となり、職員からのフィードバックを収集し、運営システムの改善や課題解決を進めた結果、一定の成果が確認できました。今後も継続的な推進が必要です。

12 本人活動の推進について

利用者ご本人・しんわ本人自治会連合会・各施設の本人自治会及び地域・社会と連携をして「本人中心」の理念のもと本人活動を推進することができました。しんわ本人自治会連合会では、「自分で選んで自分で決める」「本人中心」を徹底してまいりました。令和 7 年度もすべての活動を通常の形で行いました。「しんわ本人自治会連合会決算総会」も 6 月 7 日(土)に西部福祉会館にて行うことができました。また、令和 7 年度もしんわ本人自治会連合会が中心となり、年末年始募金の活動を実施しました。募金のお届けは日程を調整し、令和 6 年度分を令和 8 年 1 月 26 日に平塚市長並びに各団体へしんわ本人自治会連合会役員代表がお届けしました。

文化スポーツ活動につきましては、「しんわ文化スポーツ振興会」の協力体制のもと、「さわやか文化・スポーツ大会」を 9 月 27 日(土)ひらつかサン・ライフアリーナにて約 500 名が参加し盛大に開催することができました。余暇の充実を図るために同好会活動や各種行事を活発に行うことができました。

13 万田デイサービスセンターの件

万田デイサービスセンターの有償譲渡については、社会福祉法人研水会様より打診されて令和 4 年 12 月 15 日進和学園理事会で審議。以降、研水会様の高村モデル地区整備工事の着工の遅れなどもあり、具体的な条件の話には至らず、進捗状況を確認しながら 3 年余が経過しました。令和 7 年 11 月 19 日研水会様より、当該建物の不動産鑑定評価書の提出があり、11 月 27 日開催の進和学園理事会の審議を経て、法人施設長会で現地確認と調査を実施。安江設計研究所にも現地確認をしてもらい専門的なご助言をいただきました。その結果、当該建物の状態が築 30 年を経過する中で経年劣化が想定以上に進んでおり、建物取得費に加えて修繕費、ランニングコスト、土地取得費、今後の解体費を総合的に判断しますと、この経費を現在の資金と運営費から継続的に捻出するのは困難であり、新規事業をするにしても、この建物、設備の状況からこの経費を賄うだけの事業展開は難しく、このたびの建物取得は断念せざるを得ないと判断しました。その判断に至る理由を、令和 8 年 1 月 19 日研水会様及び平塚市に伝え了承いただきました。

Ⅱ《重点目標 各施設の管理運営面》

1 保育園部門の運営について

令和6年度に「保育所等における ICT 化推進事業（ICT 補助金）」を活用し導入した株式会社コドモンのシステムでは「登降園管理」「保護者との連絡」「保育計画・記録」「キャッシュレス化」を使用し、順調に使用出来ていることから機器を増やし、より保育士の業務負担の軽減を図るとともに、保護者への速やかな情報の提供や必要な情報を把握しやすい環境に努めました。各園で実施した行事（保育参加、夏祭り、運動会、発表会など）には、多くの保護者の方々が参加され、保育園での子ども達の姿を見ていただき、子ども達の成長を共有することが出来ました。

2 学童保育の推進について

「勝原学童保育会」と「旭学童保育会」それぞれ2単位ずつ、計4単位を運営しました。就学児童数は減少していますが、学童保育のニーズは増加しています。保育の充実に必要な職員体制を確保すべく採用活動に尽力したほか、放課後児童支援員資格研修受講を奨励しました。コミュニケーション、学び、遊びのデジタル化といった情報環境の変化、家族形態や保護者世代の価値観の多様化に伴うこども同士の規範意識の共通性・共有性の低下など、児童を取り巻く生活環境が変わりゆく中、学童保育における健全育成の意味、意義に真摯に向き合い問い続けながら児童一人ひとりの成長発達に寄り添い支えました。遠足、ハロウィン、クリスマス会、手づくり給食、保護者様から情報提供いただいた「うどんニコニコ体験」（丸亀製麺 25 周年感謝イベント）といった各種行事を開催し、児童同士の親睦とつながりを深めるさまざまな経験機会を提供しました。法人の人材、プログラム、機能等で総合的に学童保育の運営をバックアップし、インクルーシブ e スポーツや陶芸体験など、進和学園ならではの福祉とのふれあいも提供しました。人それぞれに異なる多様なあり方を誠実に受けとめ認め尊重する、豊かな人間性と人格の形成に寄与できるよう努めました。保護者会と運営委員会を開催し保育状況を報告し情報共有を図ったほか、保育、地域・学校連携、事業運営に関するご意見を伺いました。

3 放課後等デイサービスの推進について

「ビーライトしんわ」と「しんわブライト」の2事業所で、重度障害児を対象とした放課後支援と、発達障害児を対象とした進和学園独自の総合的発達支援プログラムとを提供しました。2012 年には9ヵ所であった市内の放課後等デイサービス事業所は、年々増加し現在42ヵ所となっています。利用の分散、共働き世帯の増加や家庭環境の多様化による学童保育代替ニーズの増大や、発達特性に配慮した学習塾や各種習い事の代替ニーズの増大に加え、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、認定心理士といった専門職による細やかなニーズ対応を謳った個別特化型支援の台頭など、地域の事業環境は大きく変化しました。その中で競争力を高めて差別化をはかるため、短期入所や作業実習など法人の経営資源との組み合わせによる特色のあるサービス支援の提案、放課後支援の対象年齢の拡大、独自性の高い発達障害支援のわかりやすく魅力が伝わりやすい広報情報の発信強化に取り組みしました。発達障害児支援部門は、登録児童数と稼働率の減少傾向に歯止めがかからず今後の回復もむずかしいものと判断し、令和7年12月に「しんわブライト」（定員10名）に一本化しました。平塚市子ども教育相談センターとの連携の下、市立小中学校の巡回相談を実施しました。学校の先生方からの直接相談にも数多く対応し、配慮を要する児童のための学習環境の整備や対応支援方法の検討に協力しました。令和7年10月に神奈川県より湘南西部障害保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業の受託打診があり、発達障害支援で培った専門性をより広域での地域貢献に活かすべく令和8年度からの受託に向けて体制を整えました。

令和6年度に発覚したビーライトしんわ放課後支援部門児童発達支援管理責任者の資格失効による減算については、令和7年9月に過誤再請求による返戻処理がすべて完了しました。

4 やましろホーム(通所)の定員変更について

令和 6 年度当初の進和やましろホームの通所生活介護事業の定員は 30 名でしたが、支援学校からの利用減少や他事業所を併用される方が多くなり、実際の利用人数が 20 名となりました。また週 2 日利用といった方がいらっしゃるため、利用実績としては 17 名に満たない状況になりました。今年度の報酬改定において 10 人単位での報酬単価になりましたので、3 月の理事会にて承認をいただき、実情に合わせて令和 7 年 4 月より定員を 30 名から 20 名に変更しました。

5 多様なニーズに対応するグループホームについて

グループホームを利用されているご本人は障がいの重い方、高齢の方なども利用するケースが増えてきており多様なニーズに対応できるようなグループホームが必要となっています。休日・夜間体制の人員配置強化、身体的介護、健康管理、栄養管理の強化を図り、どなたでも利用できる体制が必要となり改善に努めました。

6 相談支援事業について

サンシティひらつかでは、平塚市委託事業である障害者一般相談 522 件や障害サービス利用計画 1220 件（成人計画 206 件、モニタリング 737 件、児童計画 88 件、モニタリング 189 件）、障害認定区分調査 88 件を実施しました。広域の就労支援事業では、新規就労支援や定着支援を実施し、登録者は 1,005 名（R7 年度末）で相談支援件数は 6,803 件、就職件数は 64 件でした。支援対象者の数は年々増加。特に精神障がい者、発達障がい者の増加が著しく相談支援件数の約半数を占めており、通院や様々な手続きへの同行、家族支援が必要なケースなどが多く、高い支援スキルが求められています。また一般企業の法定雇用率も令和 6 年 4 月から 2.5%へ引き上げられ、令和 8 年 7 月以降には 2.7%への引き上げが決まっており企業からの支援ニーズが高まっています。他にも地域の自立支援協議会就労支援部会や県西地区の障害者就業・生活支援センターと連携し地域の就労支援機関に対して連絡会議、支援機関や企業に対して研修会を開催しました。関係機関との連携を強化することで湘南西部圏域の障がい者就労支援の中心的役割を果たしました。障害者一般相談、就労支援の両部門ともニーズの高まりと多様性が深まっており、事業の推進に努力しました。

7 意思決定支援について

令和 7 年度も、意思決定支援プロジェクトチームで推進している「意思決定支援に係る手掛かりシート」の作成に各施設で取り組みました。各施設、手掛かりシートをもとに利用者個人個人への支援を進めてきました。また、意思決定支援の具体的な支援方法を習得するための「神奈川県意思決定支援実践研修」も各施設から参加しました。

8 しんわさわやか相談室

令和 7 年度のしんわさわやか相談室の開催は、既存の行事日程と合わせて開催することは難しく、相談員の方々には書面報告としました。各施設においては日頃より多様な相談を貴重なご意見として受けとめ、真摯な対応に努めました。

9 生活体系の推進について

- ① 保健活動は、保健委員会と法人、施設長会の協調のもと、利用者ご本人、ご家族および職員に対して、引き続き感染防止対策の徹底の呼び掛けを行いました。利用者ご本人の高齢化、重度化に対し医療機関との連携の必要性が高まっています。入所施設に限らず、通所系の事業所においても、ご本人・ご家族の高齢化が進んでおり、通院等の協力も行っております。利用者ご本人の通院に関する業務や内服薬の管理、毎月の血圧・体重の

計測、日常の衛生への呼びかけを実施。また年 2 回の嘱託医による健康診断をはじめ、各種検査（胸部レントゲン、血液検査、尿検査、検便等）の他、口腔健診も実施しました。人間ドック（54 名受診）、婦人科健診（14 名受診）の結果をふまえ、健康の維持・増進、疾病の早期発見・早期治療を図るため個別的な具体策を計画・実施しました。感染症対策としてインフルエンザワクチンの接種（利用者と職員の全体で 614 名）を実施し、コロナ対策としては 12 月に 9 回目のワクチン接種（26 名）を実施しました。また職員の人間ドックについては健康助成規定により実施（155 名受診）しました。

- ② 防火管理者会では各事業所の本人防災委員と共同で活動しました。毎年、平塚市災害対策課、地域消防団の協力のもと、総合防災訓練を行なっています。11 月 5 日に万田・高根地区で実施、11 月 11 日に土屋・吉沢地区で実施しました。その他にも毎月 1 回、各事業所で地震・火災のみならず、自然災害を想定した非常災害訓練を行ないました。AED・心肺蘇生法の技術の向上を目指し、講師の資格を保有している職員が講師となり講習会を行ないました。
- ③ 地域生活支援の拠点機能として、法人全体で、短期入所枠は計 26 床（やましろ 4、あさひ 4、はばたき 10、万田 8 単独型）あり、在宅で障がいのある方の地域生活を支える機能、グループホームのバックアップ機能、緊急ケースの対応などの機能を果たしました。令和 7 度実績は、万田ホームは短期入所 2,760 件、日中一時支援 884 件、やましろホームは短期入所 1,022 件、日中一時支援 321 件。あさひホームは短期入所 1,411 件、日中一時支援 117 件。はばたき進和は短期入所 2,056 件、日中一時支援 80 件を実施しました。

10 作業体系について

- ① ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業株式会社様のご支援のもと、52 年目を迎えました。品質管理の強化に努め、92 カ月連続で「ミスゼロ」を達成するなど、安定した作業体制を維持しました。令和 7 年度は、国内生産の回復基調の恩恵や部品単価の見直しの影響を受け、工賃収入は 115,017 千円となり、前年比 7.8%の増加となりました。これにより、収益は 2 年連続でコロナ前の水準まで回復しています。一方、物価高の影響等により、国内販売台数の減少等もあり作業量は減少傾向にあります。引き続き、株式会社研進と連携し安定した受注の確保に取り組みました。
- ② 作業の確保については、生産事業推進会議を中心に、法人全体の横断的、柔軟的な生産事業体系をもって、また地域・各お取引関係者様のご協力もいただき受注並びに販路拡大に努めました。特に自主製品の生産については、サンメッセ、ルネッサンスを窓口、平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、販路拡大、イベント等に積極的に参加を通して、受注増を実現しました。令和 7 年度は 242,803 千円となり、前年度比＋7,292 千円で＋3%と過去最高となっています。
- ③ 製パン作業について令和 6 年 5 月よりルネッサンスにて製パン作業を新たに稼働させ、2 年目となり新商品の開発をはじめ生産・販売体制の再構築をおこないました。サンメッセは、実績を活かした独自の商品開発や積極的にイベント等へ参加し販路の拡大等に努めました。ルネッサンスは、生産性・品質面の向上に努めると共に(株)研進と協同しホンダマーケットや地元企業との連携により独自の販路拡大に取り組みました。取引先をサンメッセ、ルネッサンス間で納品エリア、ルートなどの再構築をおこない、効率化とともに相互の強みを生かした生産・販売体制の構築に取り組みました。
- ④ サンメッセは平塚商工会議所の逸品研究会や名産品協議会へ参加、市内商工関係者と

連携のもと商品開発、販路拡大に努めました。製パン班はルネッサンスとの分業により新規取引先の開拓に努めました。令和 8 年 3 月に開催された「パンのフェス」へ参加し、新商品のアワード（表彰）において地元の業者とのコラボ商品「まるごと石焼き芋ぱん」を出展、惜しくも受賞には至りませんでした。利用者の方が考案した限定ぱんなど、利用者皆さんの技術、熱意を伝えることができました。平塚市ふるさと納税返礼ギフト「湘南みかんぱん」の注文は 9 件（昨年 35 件）でした。工芸作業は季節に応じた商品を販売し多くの注文をいただきました。やえくぼは敷地内や地域の方からいただいた竹を活用した商品の竹炭は好評であり増産を図りました。また、竹を使った新商品の開発や新規作業の開拓に努めました。

- ⑤ ルネッサンスの農産品加工事業は 13 年目を迎え、80 以上の農家・業者からの受託で売上は 55,817 千円と高水準を維持することができました。しかしながら、原材料の確保について、生産農家の減少や天候不順の影響により思うように進まず、関係機関のご協力を得て、必要最低量である 20 トンを確保することができました。あわせて、HACCP に基づく衛生管理にも継続して取り組みました。
- ⑥ いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村での植樹祭等を中心に様々な植樹に参加しました。また豊島区より緑化推進のための苗木配布も行ないました。一方、大規模な植樹が少なく、令和 7 年度の苗木の出荷数は 14,400 本となりました(前年比：26.1%減)。平成 21 年度よりの累計出荷数は 398,919 本となりました。さらなる開拓を推進し、他法人施設との連携（どんぐりブラザーズ）に努めてまいります。
- ⑦ 施設外就労として、株式会社フリーデン様本社の植栽管理や株式会社ゴバイミドリ様ハウスでの水遣り作業を推進しました。また、しまむらストア様ともバックヤード作業に 2 グループ、環境整備に 1 グループを配置し作業に取り組みました。また各店舗にて進和学園自主製品を販売する「進和学園フェア」を定期的実施させていただき、継続的な連携を深めました。
- ⑧ 在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、しまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となりました。制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めました。
- ⑨ ルネッサンスは湘南西地区および平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワーク構築や受注作業のマッチング機能を推進しました。人材不足の中、連携する事業所間で調整し受注量の維持に努めました。現在、水道メーターの分解、どんぐり関連作業、公園清掃などで 13 の事業所と連携しています。また、平塚市ビルメンテナンス業協同組合様から平塚市聖苑の除草作業を受注し、これを推進しました。
- ⑩ ともしびショップ湘南平は、平成 30 年 3 月 25 日よりリニューアルオープンし、サンメッセしんわと一体的に運営しております。1 階の喫茶部門はホットケーキの店「湘南リトルツリー」として、2 階の販売部門はレイアウトを一部変更し学園の自主生産品やお土産グッズ等を展示・販売しました。就労支援として利用者ご本人 2 名の方が交代で実習を実施しました。湘南リトルツリーではホットケーキを中心に法人内で生産するパンやトマトジュースなどを使用したメニューや他の福祉事業所とのコラボメニュー等、福福連携も推進しました。(株)研進の支援により年 6 回、赤坂のホットケーキパーラー「フルフル」の其田シェフによる「フルフルデー」を開催し、スペシャルメニューを提供しお客様に喜んでいただきました。外テラスのウッドデッキはペット連れのお客様も増えており好評でした。

⑪平塚市役所の 1 階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は令和 7 年 7 月で満 11 年となりました。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、進和学園はその事務局を担当し事業を推進しました。平塚市・東海大学交流提携 40 周年記念事業でサンメッセしんわが学生さんと共同開発した「湘南ゴールドぱん」を販売。また誕生したイメージキャラクター「ありまる」の完成披露式を開催するなど販売促進や運営の理解促進に努めました。また生産事業推進会議パフォーマンス部会の FM 湘南ナパサ 78.3MHz のラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜 20:00~20:30)も放送を始めて満 11 年となり、あらたな企画内容で利用者ご本人が中心にパーソナリティとして参画し、福祉の実践からの情報発信、福祉啓発に努めました。

11 主な全体行事

- ① 第 73 回湘南ひらつか七夕まつりが令和 7 年 7 月 4 日~7 月 6 日に開催され、進和学園からも竹飾りのテーマを「宝船」として出展しました。園児・利用者の夢を短冊に書きその夢をのせて七夕の夜空を航行する船を仙台和紙で表現しました。竹飾りのコンクールでは「準入選」となりました。和紙を使った飾りは皆さんに好評でした。また、「第 24 回さわやか文化スポーツ大会」(令和 7 年 9 月 27 日)も開催することができました。ひらつかサン・ライフアリーナに約 500 名が一堂に集まり、卓球やバドミントン、ソフトボウリングやボッチャなどたくさんのスポーツを楽しむことができました。くじ引き競争も会場にいた皆さんが参加されとても喜んでいただきました。ロビーでは自主生産品の展示や茶道同好会によるお茶のおもてなしも好評でした。文化・スポーツを通じて多くの方とふれあうことができました。
- ②本田技研工業(株)様には、七夕まつりの期間中に埼玉製作所より 4 名の方がご来訪くださり、各事業所をご視察いただき、交流を深めました。クリスマス交流会では、購買部門・各製作所より 16 名の方がサンタやトナカイに扮してご来訪くださいました。とびっきりレインボーズの演奏や各事業所での交流を通して盛り上がることができました。利用者本人および職員全員に特製の T シャツとクリスマスプレゼントを 860 名分いただきました。
- ③天神まつり 令和 8 年 1 月 24 日(土)地主の真壁様と万田ホームの利用者ご本人と職員、いずみ保育園にてお参りをしました。

12 月報しんわ

進和学園の活動報告や情報発信の手段として、「月報しんわ」を昭和 50 年より発行しています。月報編集委員会が中心となって、読みやすく且つ内容の充実に努めました。令和 7 年度は 3 か月ごとに 1,350 部を発行しました。関係者はじめ地域、ボランティア、社会ご支援者、行政関係に配布し、ホームページでも公開し情報開示に努めました。

III <職員の処遇について>

一人一役を合言葉に、一人ひとりが学園運営に参加することを主眼に各種事業を展開しました。

1 職員互助会について

職員の福利厚生を推進するため、法人全職員参加のもとに互助会を設立して 29 年。有効に運用され、職員の安心感は深いものがあります。令和 7 年度は職員健康共済規定の出産休業援助事業による出産給付金支給は 5 名(給付額 875,389 円)、一般疾病による療養給付金支給は 10 名(給付額 2,281,705 円)と多くあり、384,423 円の単年度赤字となりました。7 年度は在籍職員が 5 名ご逝去されました。その内 3 名の方には療養給付金を支給しています。傷病手当金の条件変更があったことと単年度赤字が続くことから、互助会会則や健康共済規定の見直しも検討しましたが、貯えもあり有効に活用されていることから引き続きの課題としました。しんわ家族会様には、互助会設立以来継続しての助成に深く感謝いたします。

2 労務について

労務委員会と定期的に意見交換をして、公平性を踏まえた上で職員の多様な働き方が可能となる条件や規定を整理するなど、働きやすい職場づくりを進めました。令和7年4月1日から施行される育児・介護休業法の改正に合わせて育児休業規定及び介護休業規定の一部改定を図り、男女とも仕事と育児・介護を両立できるように、育児期の柔軟な働き方を実現するための措置の拡充や介護離職防止のための雇用環境整備、個別周知・意向確認の義務化などに努めました。給与体系につきましては、福祉・介護職員処遇改善加算を活用して、最低賃金上昇に伴い本俸の時給単価を上げること、諸手当と賞与の一部を本俸に組み込む事で全体の本俸のベースアップを図りました。また、夜勤手当の増額、特殊業務手当の創設など諸手当の見直しも行いました。保育園部門については公定価格の増額があったため給与体系のベースアップを図ることができました。学童保育部門については平塚市からの処遇改善及びキャリアアップに係る補助金で賃金改善を図りました。

3 永年勤続表彰感謝について

令和7年度永年勤続者は、勤続5年(15名)、10年(15名)、15年(6名)、20年(6名)、25年(3名)、30年(2名)、35年(1名)、40年(2名)、45年(2名)、50年(1名)計53名でした。感謝式は、障害部門は12月3日(水)、4日(木)、保育園部門は12月11日(木)、学童保育部門は11月27日(木)に分散して行い、感謝金を贈り表彰感謝を実施しました。

7年度末の職員数419名のうち、継続職員247名、嘱託職員22名、準職員150名となります。(常勤職員率64.2%。内訳は男性84.8%、女性52.4%)

男性職員は152名、平均勤続年数16.63年、平均年齢48.85歳です。

女性職員は267名、平均勤続年数10.72年、平均年齢47.08歳です。

IV《理事会・評議員会の開催状況について》

理事会 令和7年6月5日(木)	理事8名 監事2名	第1議案 令和6年度事業報告について 第2議案 令和6年度決算報告について 監事監査報告について 社会福祉充実残額について 第3議案 運営規程の一部改定及び新設について 保健規定の一部改定について 特殊業務手当に係る規定の新設について 第4議案 就労選択支援事業の新規指定について 第5議案 任期満了に伴う役員候補者の推薦について 第6議案 任期満了に伴う評議員候補者の推薦について 第7議案 任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任について 第8議案 定時評議員会の議案と日程について
評議員選任・解任委員会 令和7年6月5日(木)	委員2名 監事1名 理事長	第1議案 評議員の選任について
評議員会 令和7年6月26日(木)	評議員7名 監事2名 理事長	第1議案 令和6年度事業報告について 第2議案 令和6年度決算報告について 監事監査報告について 社会福祉充実残額について 第3議案 役員の選任について 報告事項 令和7年度事業計画及び当初予算について

理事会 令和 7 年 6 月 26 日(木)	理事 6 名 監事 2 名	第 1 議案 理事長の選定について
理事会 令和 7 年 11 月 27 日(木)	理事 9 名 監事 2 名	第 1 議案 令和 7 年度第 1 次資金収支補正予算について 第 2 議案 規程等の一部改定及び新設について 1 運営規程 ① サンメッセしんわ在宅支援の追加 ② 保育園部門の給食費の変更 ③ しんわルネッサンス就労選択支援の新設 2 経理規定 しんわルネッサンス就労選択支援の追加 3 給与規定 ① 障がい部門 ② 保育園部門 第 3 議案 しんわさわやか相談室第三者委員の変更について 第 4 議案 放課後等デイサービスの運営について 第 5 議案 万田デイサービスセンターの譲渡について 第 6 議案 外国人人材の雇用について
理事会 令和 8 年 3 月 26 日(木)	理事 9 名 監事 2 名	第 1 議案 令和 7 年度第 2 次資金収支補正予算について 第 2 議案 令和 8 年度事業計画（案）について 1 法人事業計画・日程について 2 運営組織図・職員配置表について 3 利用者状況・職員構成表・採用職員について 4 総合支援サービス計画図について 5 生産事業推進会議について 6 神奈川県発達障害支援体制整備事業の受託について 7 つどいの広場「どれみ」開所日について 第 3 議案 令和 8 年度当初予算（案）について 第 4 議案 平塚市の法人指導監査に係る改善計画について 第 5 議案 規則・規程等の一部改定、策定について 1 経理規定の一部改定について 2 運営規程(保育園部門)の一部改定について 3 給与規定(保育園部門)の一部改定について 4 グループホームの定員変更について 5 地域移行等意向確認に関する指針について 第 6 議案 進和やましろホーム変電設備の改修工事について

令和 8 年 6 月 4 日
社会福祉法人 進和学園